

たいら  
平良グスク



平良グスク

平良グスクは字平良の西側にある標高約109mの丘陵の岩山にあります。

グスクの西側は絶壁<sup>ぜつぺき</sup>ですが、東側や南側では一部斜面になっており、生い茂った木立ちの中に城壁と石畳道が見られます。城壁は標高約100mのラインに沿って東側から南側にかけて岩と岩との間隙<sup>かんげき</sup>に積み、そのほとんどは野面積みですが東側の一部には切石積みも見られます。またグスク時代の遺物包含層<sup>いぶつぼうがんそう</sup>（当時の道具等を含む文化層）が崖下や頂上の平場にみられます。これまでの試掘調査では土器、中国製の陶磁器<sup>とうじき</sup>、骨製品<sup>こっせいひん</sup>、釣針<sup>つりばり</sup>、刀、鉄製の矢じり等貴重な遺物が出土し、その他、炭火した米、麦、粟なども出土しています。

平良グスクが形成された時代は出土遺物から14世紀～15世紀頃と思われ、南山における前衛的グスクであると考えられています。

